

2月



カトリック麹町教会

MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに ～希望に錨を下ろして～

誰も見ていないところでも

誠実を尽くす

イエズス会司祭 萱場基

標題の思いが、いつの頃からか、私が司祭職に携わるときに心がけとなりました。

毎年、鎌倉の鶴岡八幡宮の例大祭で、流鏑馬（やぶさめ）神事が奉納されます。知り合いの中学生が出るというので、行きました。

流鏑馬神事で注目されるのは、もちろん射手（いて）です。鎧直垂（よろいひたたれ）を着用し、立烏帽子（たてえぼし）と綾蘭笠（あやいがさ）をかぶり、馬場を疾走する馬にまたがり、三か所に設けられた的を馬上から弓矢で射抜きます。的に矢が当たると、観客から称賛の歓声が沸き起こります。



知り合いの中学生は烏帽子、直垂の装束を着ていますが、まだ射手ではありません。二番目の的（二の的）に当たり、地面に落ちた矢を拾う諸役です。観客の目は三の的を目指して疾走する射手を追いかけています。矢を拾う諸役の彼を誰も見ていません。私以外は。彼は地面に落ちた矢を丁寧（ていねい）にしかやうやくし運び、箱に収めます。誰も見ていないのに、その所作は静けさの中に凛とした雰囲気（きんぷい）を漂わせていました。私は驚愕（きんがく）しました。「美しい…」

ミサにおける所作に心を込める

その時から、私はミサを司式するとき、発声とともにさまざまな所作にも心配りをするようになりました。会衆が見ている場面だけではな

く、たとえ見てはいないところでも。

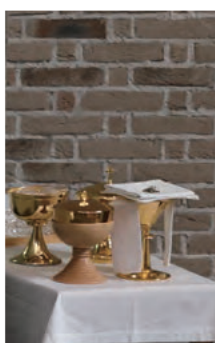
たとえば、聖体拝領が終わり、司祭はカリスを水ですすぎ、チボリウムやパテナとともにプリフィカトリウムで拭き、コルポラレをたたんで祭器具を片付けます。この所作をも誠実に言うことを心がけています。

聖イグナチオ教会でのミサ司式奉仕

私は教会で働く司祭ではありません。主にイエズス会が設立した中学校で使徒職を務めてきました。今もカトリック学校に関わっています。麹町聖イグナチオ教会でミサのお手伝いするようになるのは、2018年からです。5月にギンタ・ケルクマン神父様と佐々木良晴神父様が相次いで帰天されました。直後に、教会の主任司祭（当時）だった英隆一朗神父様とSJハウスの食堂で話しました。「大変なことになったね。祈ってますから」と言う私に、英神父様はこう答えました。「ありがたう。こんな時、信徒さんは熱心に祈っている。イエズス会の神父にはミサを司式する

ために教会に来てほしいんだ。その時から、聖イグナチオ教会でミサの司式が始まりました。

私は1996年9月21日（聖タイ使徒の祝日）に、レゾ・デルカ神父、竹内修一神父、ホアン・アイダル神父とともに司祭に叙階されました。今年は司祭叙階30周年です。誰ひとり欠けることなく司祭職を続けてこられたことに、私たちは感謝しています。私たちに司祭の役務を委ねてくださっている信徒の皆さまに心から感謝し、これからも、どうぞよろしくと申し上げます。



教会報 MAGIS 2月号

- † 教会黙想会 P2～3
- † 冬の教会行事とミサ P4～5
- † 〔教会活動連絡会便り〕
～信徒交流連絡会～ P6
- † Family of St. Ignatius
～ベトナム共同体から～ P7

共同祈願

† 2月の祈り

(1月31日18時～2月15日18時)

ロシアによるウクライナ侵攻から

まもなく4年になります。

国を守るために闘っている方々を

心に留めましょう。

平和を願う心が世界に広がりますように。

† 四旬節の祈り

(2月21日18時～3月29日18時)

教会は、復活祭に洗礼を受ける志願者と

四旬節を歩みます。

祈りと断食によって心を整え、

ともに復活の喜びにあずかれますように。

また、キリストの平和が世界で実現できますように。

教会黙想会

神の民としてひとつになろう

昨年11月22日(土) 10時より主聖堂にて、グエン・タン・ニャー神父による黙想会が行われました。神父様は日本語、ベトナム語、英語で話をされ、2回の講話の後にそれぞれ15分ずつ黙想の時間を持ちました。黙想会の最後をしめくくるミサでは参列者一同、神の民としてひとつになれるよう祈りを捧げました。(YouTube 配信あり)

第一講話

国際的なひとつの共同体であることを再認識

- ・すべての人は神の民として招かれている
- ・神の御前にいることを意識しながら、振り返る
- ・自分は神の民の一員としての意識を持っているのか
- ・どのようにしたらこの民の家族は互いにもつと支え合うことができるのか

- ・カトリック教会は「普遍性」という本質を持っている。ある特別なグループのためではなく、すべての人々に神の救いを届けるようにつとめている
- ・聖イグナチオ教会は一つの国の信徒だけでなくたくさんの国々の信者が集まる国際的な共同体である
- ・教会の「普遍性」と国際的な共同体であることを再確認し、ともに祈る共同体を目指していきたい

カトリック教会は「普遍性」という本質を持っています。この道を望む人は誰でも参加できる、ということを確認したいと思います。

具体的に、この教会の国際的な共同体についてお話

しします。週末のミサの数は10回ほど、日本語のほか違う言語でも神さまを礼拝しています。日曜日、朝から晩まで教会にいたら「普遍性」を感じることができると言います。いろいろな国の人々が集まっています、これこそ神の国だといつも思っています。すべての人々が教会に集まって神を礼拝する、ということです。

①一緒に祈る共同体を

目指す

『シノドス流の教会』(カトリック中央協議会)の中に、神の民について説明している箇所があります(P31～40)。神の民は三位一体の神の交わりに参加するように招かれているということですね。神さまは孤独ではなく、交わりを持っています。

私たちも互いに支え合い、話し合い、わかち合うということですね。神の民は神さまに所属しています。そこには霊的な共同体、喜びがあります。これを忘れてしまったら、教会は人間的な組織になってしまいます。

②共同体の一員として

信仰生活を歩む

信仰者は共同体に属していることも意識しなければなりません。神さまはどこにでもいらっしゃるから、自分で祈ってミサに参加しないという人もいます。神さまとの関係も大事ですが、それだけでは共同体とのつながりが欠けています。信仰者として共同体の中で成長していくことも大事です。個人的、共同体的、両方のレベルを考えなければいけません。

2025年の世界におけるカトリック信者の人数は14億600万人です。当教会の所属信徒は約1万8000人です。日曜のミサは7つの言語で行なわれています。参列者は日本語は約1300人、英語は約1000人、ベトナム語は約300人、豊かな家族です。これをどのように考えるのか、2つの聖書の箇所を黙想しながら祈ってみてください。

*マタイ28章16～20節

(抜粋)

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。」イエスは天に上げられる



キリストにおいてひとつになろう。さんさん考えて祈ってみても難しい。でも、キリストの力、恵みによって、ひとつになることができます。

「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。…そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです」

＊ガラテヤ3章26～29節

(抜粋)

前、弟子たちを派遣した。すべての民はイエスの弟子として招かれている。それは特別な権利ではない。誰でもイエスに従うことができます。

第二講話 国際的な教会、 各言語の共同体の課題

・ 共同体になる…
互いに分かち合い、
知り合う機会が少ない

・ 日本語の共同体…
高齢化、召し出し不足、
活動グループの継続

・ 外国語の共同体…
日本語の難しさ、滞在資
格不安定、まとめ役がい
ない、活動の場所が足りない

地方の教会に在日ベトナム人の司牧のための協力司祭として出向くことがあります。地方に行けば行くほど、ミサは多言語で行われ自然と共同体ができています。これは聖イグナチオ教会の課題です。神に感謝して、うまく共同体性を保てればと思います。共同体性とは互いに分かち合い、知り合うことです。今まで試みはありましたが、さらに知ってもらうことを意識し、互いの存在に気づくことが大事です。

各言語の共同体の問題について。日本人信徒については高齢化です。聖イグナチオ教会には100を超える活

動グループがありますが、どのグループもメンバーの高齢化で継続できるかが課題のひとつです。召し出し不足もあります。教会で司祭を養成することも大きな課題です。

ベトナム人共同体は約1300人、20代の技能実習生が多く、3～5年と滞在期間が決まっているのでいずれ帰国してしまいます。日本語も大きな壁です。若者は家族のサポートがなく、現場の仕事は日本人がいらないので日本語も覚えられず、日本人の友だちができません。言葉の問題で皆と協力して何かを行うことが難しいです。

信仰を励ますために、マリア祭、子どもたちのお月見祭や信仰教育、青年大会、上智大学でクリスマスミサを行っています。クリスマスミサは未信者も多く、宣教の場でもあります。青年大会は全国から1000人ほどの若者が集まり、土曜日に行っている結婚式は年間100組ほど、合同での結婚式も多いです。教会は彼らにとって大事な居場所になっています。

教会祭、国際青年会、大掃除、クリスマス準備、評議員

の活動などをもに行っていますが、これからさらに一緒にできることを考えていきましょう。

＊ルカ10章25～37節(抜粋)

「しかし、彼は自分を正当化しようとして、『では、わたしの隣人とはだれですか』と言った。…ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。…ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。ところが、旅をしていたあるサマリヤ人は、そばに來ると、その人を見て憐れに思い…宿屋に連れて行って介抱した。…さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。』律法の専門家は言った。『その人を助けた人です。』そこで、イエスは言われた。『行つて、あなたも同じようにしなさい』」

「わたしの隣人とは誰ですか。』よきサマリヤ人のた

とえの言葉です。

私たちは大きな教会に所属していますが、皆が隣人であるか考えてほしい。隣人であるなら、どのように接していけばいいのか、互いに思いやり、支え合うことができるか祈りましょう。

ミ
サ

黙想会后、ニヤ神父主司式でミサが行われました。最後に、高祖敏明主任司祭は「私たちの教会が抱えている問題や課題をわかっていただけたかと思えます。イエス・キリストを頭にひとつになることを目指し、『ともに歩む教会の祈り』を唱えながら、心を合わせて歩んでまいりましょう」としめくられました。

冬の教会行事とミサ

11月中旬から降誕節に行われた主な教会行事をご紹介します。

● クリスマスバザー

11月30日(日)にバザーを実施、寄付総額(頒布金+献金)は、160万2524円、その内60万円をカンボジア・シムリアップ教区タオム教会の活動支援に、残金を当教会マリア・テレジア基金にお送りしました。皆様のバザーの趣旨へのご賛同とご協力に感謝申し上げます。

出展17グループ、協力6グループ、個人協力者14名。小学生会・中高生会・青年から高齢者・インターナショナルグループ、そして信徒も求道者も参加。神の御心に適うバザーとなりますよう心と力を尽くしています。準備の

段階からグループ内はもとより、他グループ同志も年々つながりが深まっていることを実感しています。教会内と社会の双方に向けて、「ともに歩む教会」としてバザーを継続していけるよう願っています。(バザー実行委員会)

● 結婚感謝ミサ

11月16日(日)10時より、高祖敏明主任司祭司式のもと結婚感謝ミサが執り行われました。金婚・銀婚を迎えられたご夫妻それぞれより寄稿いただきました。

金婚記念祝福証書を頂いて

婚約の時、結婚の時、聖書朗読で次の一節で始まる伝道の書3章1〜8節を選びました。

「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある」

上智大学での4年間、米軍払い下げのカマボコ兵舎の司祭館に通いました。受付にいらした、さんに声をかけ、ルイス・カンガス神父様の部屋を訪ねた日々。1975年婚姻の秘跡にあずかったあの時。

25年経った大聖年に、一人

娘と3人でローマの四大聖堂を巡ったあの時。

そして今、50年を迎え、時の流れの速さに驚いています。また、すべての時を妻とともに過ごせたことに、敬虔な感謝の気持ちでいっぱいです。機会があれば、石神井のロヨラハウスに戻られたカンガス神父様にお伝え出来ればと思っています。

クララT・S



神さまのお導きを感じて

私たち夫婦は、昨年11月16日に、そろって銀婚式の祝福の「ミサ」にあずかることが出来ました。

私たちは、教会学校の幼なじみでしたが、中学卒業後は全く別々の道を歩んでおり、本当に偶然に再会し、夫婦となることが出来ました。

それからもう25年。思えば意見がぶつかることも多々ありましたが、それでも、二人が協力し合って、一歩ずつ温かい家庭を作り上げることが出来たのは、本当に神さまのお導きであると、ごミサにあずかりながらつくづく感じておりました。

まだまだ至らぬところの多い二人ですが、イエスさまが常に説かれていた「愛」を心のよりどころとして、助け合って生きていきたいと思っています。

これからも、多くの方々、神さまのお導きの下に、幸せなご家庭を築かれることを、いつもいつも願っています。

フランシスコ
クララ

● 新年炊き出し

新年炊き出しが1月2日(金)に行われました。今年で4回目です。福祉関連グループの有志約30名が朝から集まって、ちらし寿司を準備し、サバ缶やどら焼き、黒豆などと一緒に配布しました。開始前に待つ人が100名を超え、行列が岐部の入口から新宿通りまで達したため、予定を早めて11時前

に配り始めました。受け取りに来た方の数は286名でした。昨年が203名でしたので、大幅に増えています。毎週月曜日のカレーの会でも300名を超える日があり、炊き出しへの需要が強くなっていることが実感されます。

配布したものは、当教会のマリア・テレジア基金の他、毎月の献米で集まったお米、個人からの寄付で賄っています。たくさん献米があったおかげで、ちらし寿司のお米は買わずに済みました。この場を借りて、皆さまからのご支援に御礼申し上げます。

教会までわざわざ足を運んで寒空の下で待つ人たちに、1年のはじめに信徒が協力して奉仕ができ、よかったです。こうした取り組みによって社会の抱える貧困などの問題が解決するわけではありませんが、そのための一歩になればと思います。



▲新宿通りの交差点まで伸びた行列

主の「ご降誕おめでとぅごいいます！」

●子どもと家庭の

クリスマスミサ

12月20日(土)15時

今年も高らかな楽隊の演奏で始まりました。続いて、聖書朗読に代わって中高生による聖劇が行われました。

司式の山内保憲神父はミサ説教で羊飼いに扮し「皆にさげすまれていた羊飼いは、どんなに嫌なことがあっても、笑顔で神さまのことを思いながら祈っていたので、星に導かれて最初にイエスさまをお迎えする役目をいただきました。私たちも困っているお友だちを助け、神さまに感謝して過ごしましょう」と話されました。



▲羊飼いに扮装しての熱演 山内保憲神父

雨模様の中、ミサ終了後にテレジアホールで子どもたちにもサンタクロースからプレ

ゼントが渡されました。

*は動画配信あり

●主の降誕夜半のミサ

12月24日(水)19時

キャンドルサービス*

(15時、17時もあり)

司式の高祖敏明主任司祭は、「イエス誕生の情景には馬小屋が思い浮かびますが、聖書に馬小屋という表現はありません。『マリアは月が満ちて初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた』(ルカ2:6-7)。また『牛は飼い主を知っており、ろばは主人の飼い葉桶を知っている。しかし、イスラエルは知らない』(イザヤー3)とあり、救い主イエスは人知れず誕生し、そのシンボルが飼い葉桶であり、またイスラエルの民はその存在に気づかない。

一方、イエスの誕生には私たち人間のために生まれ出るという強い意思があったと考えられます。『大陸や言語、文化の違いを越えて、互いを兄弟姉妹と呼ぶことができる』世界が実現するよう、ご自身でも、また私たちを通して、力強く働いておられます。多くの人はそれに気づかないだけです。

クリスマスは救い主イエスの誕生をお祝いする日。飼い葉桶は戦乱や対立、飢餓や分断で汚れたこの世界に、救いと喜び、希望が与えられ、またさまざまな困難や悩みを抱えている私たち自身のシンボルと言えます。そうした喜びをもたらしてくださる主イエスに願いを込



▲降誕祭 温かいローソクの光に満たされて

めてお祝いしましょう」としめくられました。

●主の降誕日中のミサ

12月25日(木)10時*

(7時、8時半、18時もあり)

ラテン語のミサ曲『デ・アンジェルズ』を歌い、伝統を味わいながらミサを始めました。

高祖神父は、「神は御子として誕生したイエスを通して、『神の御子が私たち人間を照らす光であり、救う命である』また『言(ことば)は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた』と私たちに語られました。ヨハネ福音書の莊重な冒頭表現『初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であつた』で、ヨハネは人類の歴史の始めから計画されていた、私たち人間の救いが実現したことを気づかせようとしています。

神の似姿である私たち人間が神の子となるために、心を開いてご一緒にお祈りしましょう」と話されました。

●神の母聖マリアの祭日ミサ

1月1日(木)10時*

(0時、7時、8時半、18時もあり)

高祖神父は新年に当たり、神からの祝福の恵みをどのように活かしていけばよいのか、福音朗読をヒントに次の3つを示されました。

- ・周囲の人の言葉に耳を傾け、現実をしつかりと見る
- ・現実の中で伝えられている神からのメッセージ、御旨を識別する
- ・識別した神からのメッセージ、御旨を忠実に実行する

「聖イグナチオ教会も、同じように段階を踏んで10年先を見据えパストラル・プラン(司牧計画)を進めて行こうとしています。それには、私たちが教会の現状をよく見て知ることが重要です。昨年10月の教勢調査で、主日のミサにあずかる信徒数は外国語のミサの方が、ほぼ2倍となっています。

外国語圏・外国籍信徒との「共存」から「共生」への転換が求められている昨今、神の祝福の恵みに生かされ、聖霊に導かれ、神の母聖マリアのとりなしによって聖イグナチオ教会がキリストを頭にひとつになれるよう祈りを捧げましょう」としめくられました。

教会活動連絡会便り

2024年度の「教会活動連絡会議」で、「教会活動連絡会の機能・運営の強化」について、対話を重ねてきました。前号に引き続き、当教会にある連絡会を紹介します。

信徒交流連絡会

当教会へ、さまざまな思いを持って来る方々のために、信徒同士、人と人がつながるきっかけづくりや交わりの手伝いを意識し活動しているグループの連絡会です。つながりを広げ、交流を深め、信仰生活を祈りとともに歩み、イエスにつながる教会共同体として仲間意識を高めることを目標にしています。

信徒交流連絡会は年2回行います。メンバーは、「イグナチオ朝祷会」「ウエルカムテーブル」「受け皿グループ」「教会案内グループ」「シャロンのバラの会」「青年会」「日曜サロン」「はじめの一步」「ふれあい広場」「メリエンダ」「メルキゼデクの会」の11グループです。各グループで情報の共有をして、連携体制を強め、教会全体行事へ

の協力、課題についての意見交換などを、自由に話し合う場です。

日曜サロンで広がる交流

関連グループの連携・協力による活動の実践例が「日曜サロン」です。原則第2・第4日曜9時からヨセフホールで開催しています。主日ミサにあずかった後の分かち合い、久しぶりに教会へいらした方、おひとりで来られた方への声掛けへとつながる手伝い、入門講座後の歓談など、信徒同士の交わりによって、仲間づくりの場

が作られています。

新たに受洗・転入・改宗された方を対象に、年2回「教会オリエンテーション」を主催している「受け皿グループ」は、日曜サロンの中で「ミニオリエンテーション」を実施しています。教会奉仕活動や講座などの情報提供の他、信仰生活上の質問・相談を『信仰のしおり』を参考に受け皿メンバーと先輩信徒がお答えしています。

教会を訪れるさまざまな方に毎月一回「教会案内ツアー」を行っている「教会案内グループ」では、「日曜サロン」が案内後の休憩と歓談の場になっています。「教会案内グループ」は巡礼企画も担当し、多くの方とつながりを持つ活動をしています。

ヨセフホールに気軽に来てもらえる雰囲気づくりのために「活け花グループ」に協力いただくなど、「日曜サロン」では信徒交流連絡会の枠に縛られない交流の場が作られています。

「ともに歩む教会」を

目指して

各グループでは、それぞれに活動の趣旨に沿った形で

信徒とのつながりを広げています。

「イグナチオ朝祷会」は、聖書のお話を聞き、プロテスタントや未信者の方たちと祈り、信仰を深めています。朝食をともにし交流する場として、毎週金曜7時ミサ後から約1時間の集まりが半世紀以上続いています。

「メルキゼデクの会」は、現代社会を取り巻くさまざまな問題について学び、福音的な視点から問題への対応方法を考える行動につながることでできるよう、講演会や学習会を行っています。

「ウエルカムテーブル」は、毎週日曜に教会正門と主聖堂横のテーブルにて、初めての訪問者や教会に関心のある方をお迎えし、他の活動グループにつなぎ教会内を案内しています。

「メリエンダ」は、ミサ後の信徒の憩いの場となるよう飲み物と軽食のサーブスを、毎週日曜9時からテレジアホールで提供しています。

「ふれあい広場」は、信徒の要望を信徒同士で解決していくことを目的とし、第2日曜日にテレジアホール前回廊で活動しています。キリ

スト教関連の本への要望に応えて古書を提供し、信徒の要望や連絡を掲示板に貼り出しています。

「シャロンのバラの会」は、月2回信徒のみで福音を黙想し語り合うローズルームを開催しています。福音を日常生活の中に置き自己の内面を見つめます。後日、神父様によるフォローアップ講話で内容をさらに深めます。代父母と代子に関わるテーマも他活動グループと連携しながら扱っています。

「はじめの一步」は、受洗後3年までの方と代父母を対象にした「新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座」を企画・運営しています。

「青年会」は、高校卒業後、30歳以下の青年が集い、月に1回程度、分かち合いやミサを行い、四ツ谷の土手で花見などで交流しています。毎年行われる「20歳を祝う会」は、青年会主催です。

今後は、外国語圏のグループにも参加いただけるような体制を検討しています。出会いつながり、「ともに歩む教会」の実現を目指していきます。



Family of St. Ignatius

 きょうどうたい
 ～ベトナム共同体から～

今年もベトナム共同体は上智大学にてクリスマス祝
 い、12月24日に2回のミサ、25日は夕方にミサをとり行
 いました。平日にもかかわらず参加者は非常に多く、教会
 の活動に日頃から参加している信者のみならず各地か
 ら、多くの方々がミサにあずかるために集まりました。
 年末の12月27日には、若い家庭を対象とした勉強会
 を開催しました。子どもの教育、家庭生活におけるさまざ
 な課題について分かち合いを行い、約20家庭と多くの子
 どもたちが参加し、感謝のミサをもって締めくくられました。

1月1日元日は、神の母聖マリアの祭日であり、新年
 の平和を祈るミサには昨年と比べ予想を遥かに上回る
 多くの信者が集まりました。そのため主聖堂に入ることが
 できず、屋外で立ったまま参加される方も多数おられまし
 た。
 聖イグナチオ教会は降誕祭、復活祭、新年等の特別な
 祝日にベトナム語によるミサが行われる数少ない教会で
 あるため、各地から多くの信者が集まってくる状況です。
 新年、1月3日「イエスのみ名の祝日」には仕事の聖
 化のミサ及び結婚ミサが行われ、52名が洗礼を受け、
 27組のカップルが結婚の秘跡にあずかりました。

●宣教司牧評議会からのお知らせ●

12月(12月4日開催)

- ・2026年度教会テーマは
 【ひとつになろう キリストのうちに～ともに歩む教会へ～
 Journeying together as one to Jesus】
 となりました。
 テーマは、複数年度の使用を念頭に置いています。

1月(1月8日開催)

1. ヒマラヤ杉下の馬小屋は、日本人とベトナム人の有志
 の方々の奉仕により手際よく設置されました。また、
 片付けには英語グループからの有志も加わり、最後ま
 で丁寧に進められました。
2. 英語の主日ミサは試行的に、四旬節第1主日(2月22
 日)より、前日の21日(土)から約半年間、現在の日曜
 12:00(主聖堂)に加えて、土曜17:30にマリア聖堂で
 も行う予定です。なお、聖堂の予約状況によっては調
 整が必要な日もあるため、対応方法を検討してまいり
 ます。

●財務報告●

- ・10月19日(日)の「世界宣教の日」のための献金
 1,225,481円は、ローマ教皇庁に送られ世界中の宣教地
 に援助金として届けられます。
- ・11月16日(日)「ミャンマーデー」の献金 1,177,025円を
 東京教区を通じてミャンマーの教会へ送金しました。
- ・12月7日(日)「宣教地召命促進の日」の献金 1,360,218
 円はローマ教皇庁へ送られ、全世界の司祭養成のため
 に使われます。
- ・2025年の司祭召命のための「一粒会」への献金は
 955,728円になりました。
 皆さまのご協力に感謝いたします。

●クリスマスと正月のミサの状況●

クリスマス・正月のミサ参加人数(概数)は、次の通
りでした。

12月24日(水)	5,840人(うち日本語2,580人)
12月25日(木)	4,750人(うち日本語2,050人)
1月1日(木)	4,920人(うち日本語1,820人)
(年越し0時ミサ300人)	

●『信仰のしおり』アンケート集計報告●

2025年11月22日(土)～12月21日(日)に実施した『信仰
 のしおり』のアンケートは、回答数349件・回収率26.37%
 (10月教勢調査の日本人ミサ参加人数1,323人を基準に算
 出)となりました。今回のアンケートには、しおりの内容だ
 けでなく、教会生活や典礼、共同体の課題、そして信徒一人
 ひとりの祈りや思いなど、多様で貴重な声が寄せられまし
 た。ご協力くださった皆さまに、心より感謝いたします。

●ペドロ・アルペ神父の列福祈願ミサ●

開催日時：2025年2月11日(水・祝)11:00～

場 所：マリア聖堂

主 司 式：佐久間 勤 イエズス会日本管区長

説 教：ホアン・アルティリョ神父 宇部教会協力司祭

主 催：イエズス会日本管区本部

*ご自由にご参加ください

●献血のお知らせ●

日 時：3月1日(日)10:00～

場 所：ヨセフホール

日本赤十字社による献血を行いますので、ご協力くださ
 い。詳しくはポスター、チラシでお知らせします。

2月の典礼と行事

最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

1 (日) 年間第4主日	
2 (月) 主の奉獻の祝日	
3 (火) 福者ユスト高山右近の記念日	
4 (水)	イエズス会社会司牧センター 2026年新春セミナー テーマ：沈黙を破る - 若手外国人労働者が語る「見えない不正」 - 講師：ダン・ティ・ジェン・フーン アシジの聖フランシスコ宣教修道女会
5 (木) 日本26聖人殉教者の記念日	
6 (金) 初金曜日	祈りの集い 19:00
8 (日) 年間第5主日	新受洗者と転入者のためのオリエンテーション 11:15 ヨセフホール 教会案内ツアー ① 10:30 ② 11:00 受付 9:30 ~
11 (水)	世界病者の日
15 (日) 年間第6主日	日曜サロン・ミニオリエンテーション (受け皿) 11:00 ~ 12:30 ヨセフホール
18 (水) 灰の水曜日 (大斎・小斎)	ミサと灰の式 7:00 12:00 19:00 四旬節の期間中愛の献金
20 (金)	十字架の道行 18:45 マリア聖堂 (聖週間前までの毎金曜日)
22 (日) 四旬節第1主日	洗礼志願式 10:00 日曜サロン・ミニオリエンテーション (受け皿) 11:00 ~ 12:30 ヨセフホール
25 (水)	傾聴ルーム 11:15 ~ 15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後

『マジス』3月号は3月8日(日)発行予定です。

主任司祭：高祖 敏明

 助任司祭：ボニー・ジェームス
グエン・タン・ニャー
サトルニノ・オチョア
柴田 潔

 協力司祭：ジェリー・クスマノ
ハビエル・ガラルダ
グエン・ヴァン・テー
関根 悦雄
マヌエル・シルゴ

 神学生：アントニオ・マリオ・ダ・
コスタ・ソアレズ

 シスター：マルセラ・ロサス
フロール・フロレセ
ジェスリン・ブエンディア
ディン・グエン・ゴック・
トウエン

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間

【平日】主聖堂

7:00/12:00/18:00

【土、日曜日】主聖堂

土曜 18:00/19:30 (ベトナム語)

日曜 7:00/8:30/10:00/18:00

12:00 (英語) / 13:30 (スペイン語) /

15:00 (ベトナム語)

【月の第1日曜日】マリア聖堂

12:30 (ポルトガル語) / 16:00 (ポーランド語)

【月の第2・4日曜日】マリア聖堂

16:30 (インドネシア語)

カトリック麹町教会
(聖イグナチオ教会)

〒102 - 0083

千代田区麹町 6 - 5 - 1

TEL 03 - 3263 - 4584

FAX 03 - 3263 - 4585

<http://www.ignatius.gr.jp>
 Linktree (リンクツリー)
リンクツリー (linktree) とは多
数のリンクをまとめて表示して
いるツールのことです。このQR
コードを読み取ると教会ホーム
ページ、教会ガイド、Twitter、
Facebook、Instagram、
YouTubeへアクセスできます。

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

* 本文中の役職名等は、寄稿もしくは取材時のものです。